

令和5年度

# 「運営に関する計画」 (中間反省)

大阪市立大和川中学校

令和5年11月

## 大阪府立 大和川中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

### 1 学校運営の中期目標

#### 現状と課題

本校は、昨年度創立 50 周年を迎えた。数年前に学校の秩序が乱れ、大きな学校崩壊を経験し、学校再建として大阪府教育振興計画の第1ステージ（平成25年度から28年度）の27年度より「秩序構築」をテーマに「時間を守る、ルールを守る心の育成」を進めた。新たに学校行事の取り組みとして1年生入学時に宿泊オリエンテーションを取り入れ、「時を守り、場を清め、礼を正す」の自主自律の精神の育成、また「命を考える」教育活動の柱とした「平和維持学習」の取り組みにより、「自律する力、他者を意識し思いやる心」の育成を教職員一丸となって進めてきた。その結果、年々生徒の規範・規律意識も高まり、生徒は安定した状況で学校生活や落ち着いた授業を取り戻すことができている。取り組みから9カ年を経て、学校が安心して安全に生活できる学校へと大きく変わることができ、令和4年度末の校内調査において、「学校のきまりや規則を守っていますか」の項目に対し、肯定的な回答が97%と指導がしっかりと浸透してきた。しかし、将来の夢や希望についての目標設定についての項目では、肯定的な回答が65%と低く、また、学習習慣についても「自分で計画を立てて勉強をしていますか」では56%と、家庭での学習習慣の定着していない生徒が多い。基礎学力の向上までには、今一步及んでいない。「誰一人取り残さない学力の向上」の取り組みとして、引き続き ICT を活用した毎時間の授業や学びの振り返りや単元テストで日々の「生徒のつまづき」や課題の把握をし、教師の授業改善や「生徒一人一人の学びを最大限に引き出す個別最適な学びの実現」の加速をすすめる。それにより、生徒が「学ぶ楽しさ」を実感し、教師にとっても「教える喜び」につなげる。

大和川中学校が「安全で安心して集団生活を送ることができる」最高の学びの場を構築する。

#### 中期目標

##### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を令和3年度より90%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、令和3年度から5ポイント増加させる。

##### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている自分には良いところがありますか」に対して、肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査の「習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。

- 令和7年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答をする割合を70%以上にする。
- 規則正しい生活を身につけている児童生徒の割合（校内調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日同じくらいの時間に早寝・早起きしていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を令和7年度調査において、70%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応のため、また、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、毎日の学習者用端末使用率を令和7年度末において95%にする。
- 令和7年度において「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を85%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

#### 学校園の年度目標

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を95%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を60%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を79%以上（昨年：78.6%）にする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合を60%以上にする。

**学校園の年度目標**

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を 80%以上にする

**【学びを支える教育環境の充実】**

**全市共通目標（小・中学校）**

- 学習者用端末を活用した家庭学習を週 3 回実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 60%以上にする。

**学校園の年度目標**

- 学習用端末を活用した家庭学習を週 3 回以上実施する。

3、本年度の自己評価結果の総括

大阪市立大和川中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を95%以上にする。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめ・差別を許さない学校づくり。人権学習の年間計画を立て計画的に実践する。</p> <p>いじめアンケート調査・生徒教育相談を定期的に行うと共に、生徒ボードの活用を高め一人ひとりの生徒情報・心の天気を把握し、共通理解を深め、適切な指導を進める。</p> <p>指標：生徒教育相談・保護者懇談を各学期に実施し、いじめの正体の学習を系統的に取り組む。いじめアンケートを毎月実施し、検証する。令和5年度末の校内調査において、学校が認知したいじめについては、解消に向けての対応率を100%にする。</p>	B
<p>取組内容②【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>宿泊オリエンテーションを柱とした秩序構築を進める。新たに不登校になる生徒をうまない、学級・学年集団づくりを進める。家庭との連携を深め、きめ細かい生徒指導を行う。</p> <p>指標：校内調査における「学校に行くのが楽しい」の項目の肯定的な回答を令和4年度より5ポイント向上させる。主任会・職員会議・運営の計画等での生徒情報共有。保護者・関係機関との連携。SSWを中心としたケース会議。不登校対策委員会（年3回以上）行う。</p>	B
<p>取組内容③【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>年間指導計画にそって、防災・減災に関する授業（講話、説明、地域防災訓練への参加）や「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。学級活動や各教科横断での継続した防災学習に取り組む。</p>	B

<p>指標：火災想定と地震想定避難訓練をそれぞれ年1回、救急救命法（AEDを含む）の講習を各学年、年間2時間以上実施する。学校保健委員会を中心に生徒活動を進める。住吉区地域防災訓練に全校生徒で参加する。</p>	
<p>取組内容④【施策2 豊かな心の育成】 全ての教育活動を通して、「あいさつがしっかりできる、人の立場にたって考え行動できる」人づくりを進める。年間35時間の道徳の時間を大切に活用する。読み物資料等を活用し、道徳授業づくりを進める。「命を考える」教育活動を柱とした平和維持学習に取組み、「自立する力、他者を意識し思いやる心」の育成を図る。</p>	B
<p>指標：校内調査の「人の役に立つ人間になりたい」85%以上、「家庭や学校、地域ですすんであいさつをしている」95%以上にする。特に道徳の授業では、読み物資料を活用し、年次研修教員中心に公開授業を行う。また校内調査の「学校では命の大切さについて学ぶ機会が多い」95%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【施策2 豊かな心の育成】 社会体験（キャリア教育、職業講話、ボランティア活動等）実施し、自分の将来を考えるよう指導する。また、進路選択への情報提供をきめ細かく行う。</p>	B
<p>指標：職業講話（1年）、職業体験（2年）、高校出前授業体験（3年）、またボランティア清掃（年1回以上）を実施する。</p>	

<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>
<p>取組内容①【施策1】 いじめアンケート調査・生徒教育相談を定期的に行うことができた。いじめアンケートはICTを活用し行っている。生徒教育相談、保護者懇談では、生徒一人ひとりの実態把握、情報共有に努めている。</p> <p>取組内容②【施策1】 宿泊オリエンテーションを予定通り実施することができた。宿泊オリエンテーションを柱とした秩序構築を行っている。また、校内での情報共有、状況に応じて関係機関、ケース会議を定期的に行うことで、きめ細かい生徒指導に努めた。</p> <p>取組内容③【施策1】 定期的に校内での防災訓練（地震・火災想定）を実施した。</p> <p>取組内容④【施策2】 学校生活を通し、他者を意識し、あいさつ活動を大切に教育活動を行うことに努めた。道徳授業では読み物資料を活用し多面的に思考できる授業を行っている。7月には授業力向上のための研究授業・研究協議も行った。チャレンジルームの先生方を中心に要支援生徒の状況把握にも努めた。</p> <p>取組内容⑤【施策2】 1年は1月に職業講話を実施予定である。2年は7月にはSPトランプを、9月にはOBFに出前授業を実施していただいた。また、11月下旬に職業体験を実施予定である。3年は7月に高校出前授業体験を実施し、11月には面接出前授業を実施予定である。1年は7月、2年は5月に地域清掃を実施した。また、3年を中心に、進路の手引きの作成、進路説明会や進路学習、説明会の案内など進路選択への情報提供をきめ細かく行っている。</p>

## 下半期・次年度への改善点

### 取組内容①【施策１】

生徒一人ひとりの情報を把握し、適切な指導を行うためにも、生徒ボードの活用に関しては、今後も活用を行い教職員での共通理解を深めていく必要がある。いじめについて学校が認知すること、解消に向けての対応を徹底していく。

### 取組内容②【施策１】

不登校生徒に対しては、チャレンジルームとも連携していく。状況に応じて外部との関係諸機関とも連携し、ケース会議等を定期的実施していく必要がある。

### 取組内容③【施策１】

学校と地域の連携、地域と家庭が協力することで、総合防災訓練の内容をより深めることができる。今後も、生徒の防災に対する意識を高めていき、地域の防災活動につなげていく必要がある。

### 取組内容④【施策２】

校内調査において、「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に答えた生徒が 93.7%、「家庭や学校、地域ですすんであいさつをしている」と肯定的に答えた生徒が 87.8%であった。目標達成できている項目もあるが、子どもたちが自発的に行動できるよう、日々の教育活動を行っていく。

### 取組内容⑤【施策２】

上半期については各学年で計画通り実施できた。今後の状況によっては急な予定変更も考えられるが、できる限り社会体験や進路決定に向けての活動を行い、子どもたちが自分の将来を見据えるきっかけ作りができるよう柔軟に対応していきたい。

大阪市立大和川中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(中学校)</b></p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を60%以上にする。</p> <p>○大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を79%以上(昨年：78.6%)にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合を60%以上にする。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を80%以上にする</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①<b>【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>5教科で単元テスト・小テストを実施する。A I ドリルの活用や学習の振り返りを早く短い期間で行う事で、早期問題解決につなげる。個別の学習支援を放課後や長期休業中などの生徒自主学習時間を設定し、生徒の自主学習を支援する。</p> <p>指標：中間テストを廃止し、小テスト・単元テストを実施する。きめ細かな個別の学習支援を行う。</p>	B
<p>取組内容②<b>【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】</b>国語・数学・英語における個に応じた学習内容および習熟度別授業等を行う。(習熟度レベル上位層の更なる伸長および、下位層の引き上げにむけた取り組みを行う。)</p> <p>指標：校内調査における「授業はよくわかる」「先生に質問しやすい」の肯定的な回答を80%以上にする。</p>	C
<p>取組内容③<b>【施策5 健やかな体の育成】</b></p> <p>全国体力・運動能力、運動習慣調査で「長座体前屈」「シャトルラン」の項目を昨年度より2ポイント増加を目指す。(大阪市平均を上回る)</p> <p>指標：体力の保持増進のために基本的な生活習慣を身につけさせる。また、毎時間、補強運動を行わせ基礎体力を身につけさせる。</p>	—



年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①【施策4】</p> <p>単元テストを繰り返し、中期ではそれまでの単元テストを振り返るというように、短期の学習成果の積み重ねができるよう取り組み、問題解決に努めている。補充学習などの取り組みも、一部ではあるが3年生を中心に、生徒が主体的に参加している。</p> <p>取組内容②【施策4】</p> <p>「授業はよくわかる」79%、「先生に質問しやすい」74%が肯定と、指標を達成できていない。</p> <p>「先生は授業を工夫してくれている」は肯定意見が89%で、習熟に合わせた教材研究を進めている。</p>
下半期・次年度への改善点
<p>取組内容①【施策4】</p> <p>前期の評価を受けて、生徒ひとりひとりの課題が生徒自身により一層見えたことを生かし、引き続き短期の課題解決に取り組む。</p> <p>取組内容②【施策4】</p> <p>教材研究を進め、習熟度別授業により適した内容、方法に工夫する。学年によって担当するレベルが変わったり、教員側の授業の振り返りを、次の授業に生かすににくい点が課題であるが、解決が困難である。</p> <p>取組内容③【施策5】</p> <p>引き続き、授業開始時の準備運動を行う。</p>

大阪市立大和川中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>【ICTの活用に関する目標】</p> <p>○学習者用端末を活用した家庭学習を週3回実施する。</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標】</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を85%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○学習用端末を活用した家庭学習を週3回以上実施する。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の育成】	—
ICTを活用した授業づくり（次世代学校支援事業支援モデル校）	
指標：ICT活用によりわかりやすい授業づくりを展開し、チャレンジテスト（1,2年生）における正答率を大阪市平均に近づける。	
取組内容②【施策7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】	C
「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を85%以上にする。	
指標：「仕事と生活の両立支援プラン」等も踏まえ、性別に関係なく教職員が働きやすい環境づくりを行う。	
取組内容③【施策8 生涯学習の支援】	B
子ども相談センター、警察機関、区役所（地域子育て支援）やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携を深め、相談活動を進める。また朝読をはじめ、読書文化の継承と更なる推進を図る。（図書館、図書紹介、読書感想）	
指標：住吉区学警連絡会等と生徒の情報交換を行い、指導の方向性を確認する。 校内での不登校生徒を減らし、暴力行為件数のゼロ件を継続する。全国学力・学習状況調査の「授業時間以外での1日あたりの読書時間30分以上」を令和3年度より10ポイント向上させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【施策6】</p> <p>GIGA 端末を活用し、新学習指導要領に準拠した授業授業づくりを学校全体として進めている。目標としているチャレンジテストについては現段階で1・2年生の結果が出ていないため年度末反省時に総括する。</p>	

**取組内容②【施策 7】**

9 月末時点における「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 および基準 2 を満たす教職員は全体の 75% であった。昨年（66.7%）より大幅に増加できた。年度末に向けて、改めて働き方改革に取り組む。

**取組内容③【施策 8 生涯学習の支援】**

学警連絡会にて他校・警察・保護司・子相と情報交換し、校内でも共有している。

今年度は、学警後に生徒指導主事で集まり、各校の校則についても意見交換を行ってきた。

また、定期的にスクリーニング会議を実施することで区役所（子育て支援）と情報の共有をしている。

**下半期・次年度への改善点****取組内容①【施策 6】**

学校全体として GIGA 端末の活用・教育 DX の実践を共通認識し、実践する。校内研修や企業研修を通じて意識の向上を図る。

**取組内容②【施策 7】**

「仕事と生活の両立支援プラン」等に沿い、教職員に健康に留意した働き方を今後も支援していく。ゆとりの日の促進や長期休暇での有休取得促進を行う。また日々の健康障害防止機能の確認をすすめるなど、声掛けや健康管理の意識向上を教職員全体で図る。

**取組内容③【施策 8】**

学警の情報を、校内研修会等で活用していく。

巡視等、住吉区の中学校で連携する取り組みを実施していく。

国語科で行っているプレバトル大会や朝読書、休み時間の図書室の利用など図書コーディネーターとも連携しながら、読書への興味・関心を引き出していく。

令和5（2023）年度

# 運営に関する計画

- （1）教務部
- （2）各教科
  - ①国語科
  - ②社会科
  - ③数学科
  - ④理科
  - ⑤音楽科
  - ⑥美術科
  - ⑦保健体育科
  - ⑧技術・家庭科
  - ⑨英語科
- （3）生活指導部
- （4）健康整備部
- （5）道徳委員会
- （6）進路委員会
- （7）教育課題検討委員会
- （8）特別支援教育
- （9）ICT 委員会

大阪市立大和川中学校

(1) 教務部

評価基準    A：目標を上回って達成した                      B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった    D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況		
①教務 教育活動を滞りなくおこなうことができるよう、教務作業を進める。		B	B	
指標 ・年間行事、月中行事、時間割、補欠割り当て、日課表、テスト範囲、テスト計画、テスト監督表、問題解答保管、素点一覧管理、成績一覧管理、チャイム、出席統計、時数統計、転出入処理、生徒名簿作成、要録管理、教育実習、教科書、副読本、視聴覚、進路等についての作業 ・上記作業についての知識の伝達				
②校務 ICT 校務系仮想 PC 上の作業についての理解を深め、職員全体に共有する。		B		
指標 ・校務 ICT システムの活用研究 ・必要な研修の実施				
③カリキュラム調整 教育課程と行事予定について調査と調整をおこない、時間割を改善する。 学習指導要領に基づき、各教科の評価基準について調査と検討をおこなう。		B		
指標 ・習熟度別授業に合わせた時間割の立案と改善 ・授業時数確保のための時間割調整 ・次年度評価基準の作成				
現状と分析				
① 普段の業務中や教務部会などで、必要な検討を行い、課題を解決できている。				
② 研修が必要ないほど、職員の校務系システム活用の理解が進んでいる。これまで取り組んできたことが実を結んでいる。				
③ 行事期間中の特別時間割も含め、時間割を適宜作成し、教育課程、行事予定に合わせて運用することができている。				
下半期・次年度への改善点				
③ 次年度の教育課程の計画をはじめ、指導計画、評価基準等の作成に早い時期から取り組む。各教科の評価について、より一層の改善にむけて評価研修の内容を検討する。				

(2) 教科の重点①〔国語〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
① 【基礎学力の定着】漢字学習に重点的に取り組み、基礎学力の定着を図る。	B	B
② 【言語能力の育成】音読やスピーチ、作文の時間を年間15時間以上取り入れ、言葉の大切さや楽しさを学ぶ。	B	
③ 【個に応じた学習指導】提出物の完成を目指し、個に応じて提出を支援する。	B	
④ 【自主学習習慣の定着】テスト前一週間は始業前や放課後等を活用して、自主学習を支援する場を提供する。	B	
⑤ 【習熟度別少人数授業の実施】生徒の現状を把握し、個別に最適な授業を展開する。	B	
現状と分析		
<p>①各学年、週末課題や単元テスト前において漢字プリント作成、小学校の漢字の復習も兼ねて取り組んでいる。また、習熟別授業で特に文法や語句などの知識の問題にも積極的に取り組み、基礎学力の定着をはかっている。</p> <p>②定期テスト、単元テスト、また課題としてや、週末課題として作文指導を行っている。起承転結に成り立っての文章構成や、課題に適した文章作成など、生徒たちは前向きに取り組んでいる。3学年共に300字作文は書ききることができるよう指導を継続して行っている。</p> <p>③漢字プリントの提出をはじめ、ワークやその他プリントの提出率は、上がってきている。しかし、なかなか完璧に仕上げるのが難しい生徒もいるため、プリント作りの工夫をこらしながら、声掛けを継続的に行う。</p> <p>④自主的に取り組める課題を配布。基礎学力の定着と共に、自ら考えやり遂げる生徒も増えてきた。</p> <p>⑤引き続き、わかりやすい授業のため教材研究を継続していく。</p>		
次年度への改善点		
<p>・国語科としての習熟度別授業の在り方をさらに考え、前期とは違う展開の仕方で最善の方法を模索する。</p> <p>・日々の学習で身につけた知識を、スピーチ等において、自分の言葉で表現ができるよう、今後も積極的に取り組んでいく。</p> <p>・提出物の提出率が80%以上になるよう、声掛けを引き続き行っていく。</p>		

(2) 教科の重点②〔社会〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【基礎学力の定着】 授業準備・規律を徹底し、日々の学習習慣を育成するとともに、個別に最適な学習に取り組むことを目指す。	B	B
② 【発信力の育成】 班活動などのアクティブラーニングを通じ、自ら疑問について調べ、共有し、発信できる学習機会を授業の3割程度確保する。	B	
③ 【習熟度に応じた学習指導】 定期的に単元テストや小テストを実施し、その内容に合わせた補習や教材提供を行うことで、チャレンジテストでの対市平均の数値上昇を目指す。	B	
④ 【自主学習習慣の定着】 ドリルの活用や自主学習ノート、またプリント学習について、すべて自主提出とし、主体的に学習に取り組む習慣の育成を目指す。 (自主提出であるが提出率80%以上になるようマネジメントを行う。)	B	
⑤ 【情報活用能力の育成】 GIGA 端末を活用し、プレゼン作成や調べ学習、パフォーマンステストの場面で、ルーブリックに則した成果物が作成できているかを評価することで、情報活用能力の育成を図る。(パッケージ提供も並行して行い、インクルーシブ学習への取り組みも進める)	B	
現状と分析		
① 授業規律については適宜指導し、保たれている。また、個別最適な学習についても課題に対しての評価基準（ルーブリック）を示し、各自の興味関心から課題に取り組めるよう工夫を行った。 ② 単元により時間数は上下するが、対話的な学習の機会については各単元ごとに設けている。 ③ 単元テストは計画通り実施している。 ④ 学年ごとに差異はあるが概ね8割以上の提出率を維持できている。 ⑤ パッケージ提供（クラスルームによる教材提供）の継続を続け、今後も情報活用能力の育成に努める。		
下半期・次年度への改善点		
概ね計画通り進めることができているが、数値目標を達成するため後期はさらに多くの取り組みを進めていく。そのための方策として、学習の主体性、興味・関心・意欲向上を見込めるため、積極的にゲーミフィケーションをカリキュラムに取り入れていきたいと考えている。		

(2) 教科の重点③〔数学〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【基礎学力の定着】 要点をまとめたものを別途用意し、より分かりやすく生徒へ提示することで効率の良い学習へ繋げる。	B	B	
② 【言語力の育成】 ICT 機器などを活用し、協働的な学びを通じて数学的知識の定着を目指す。	B		
③ 【個に応じた学習指導】 到達度別学習課題を作成し、個に応じた学習支援を行う。	B		
④ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 基本的に毎時間課題を設定し、個に応じた課題も設定する。	B		
⑤ 【習熟度別授業の実施】 学年全体において、学習到達度に応じた習熟度 3 分割授業を年間を通して行う。	B		
現状と分析			
① 要点をまとめるプリントを作成し、基礎的事項を振り返ることができるようにしている。 ② デジタル教科書や学習者用端末を使用して授業を行っている。 ③ 習熟度コース別に個に応じた課題を作成し、主体的に取り組めるよう学習支援を行っている。 ④ 家庭学習の習慣化のための課題を作成している。 ⑤ 全学年で 3 分割の習熟度別授業を実施しているが、その中でも学習内容の理解度についての差が大きく、個別の支援が必要な生徒がいる。			
下半期・次年度への改善点			
・毎時間の教材作成に追われて余裕がなく、同内容の授業を 1 度しか実施できない中で次年度以降の授業に少しでも活用できるようにしていきたい。 ・個別の対応が必要な生徒に対して、放課後の学習や個別課題などの対応を進めていく。 ・講義形式の授業だけではなく、グループワークの機会を増やし、生徒たちが主体的対話的で深い学びが行えるような学習環境作りを工夫していく。			



(2) 教科の重点④〔理科〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
⑥ 【基礎学力の定着】 a. 毎時間の授業の目標と既習事項をはっきりさせる。 b. 基礎的な知識の小テストを小单元ごとに実施し、学力の底上げを目指す。	B	B
⑦ 【言語力の育成】 生徒の素朴概念を科学概念へと発展させる「発問」を工夫し、授業に組み入れ、発表やグループワークを行う。	B	
⑧ 【個に応じた学習指導】 a. 必要に応じて補習を行い、個々の学習進度に対応する。 b. ICT、演示実験などの教材を工夫し、体験的な教材や生徒による観察・実験などを单元毎に実施する。	B	
⑨ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 家庭において計画的に学習する習慣を身につけさせるため、ICT や問題集を活用する等して单元ごとに課題として提示し、確認する。	B	
現状と分析		
①a. 毎時間の授業の導入・終わりに既習事項の確認、本時の目標を提示している。 b. 各学年、各单元で小テスト、单元テストを実施している。 ②理科室での取り組みやデジタル教材の活用により生徒の興味・関心を高め、発表や話し合いを行わせた。また、夏休みの自由研究のほか、様々な单元で発表の場を設けることで、一人一人が発表する機会を与えることができた。 ③a. テスト結果を分析した上で、低学力の生徒や希望する生徒を対象に補習を行った。 b. 演示実験やデジタル教材を用いて指導を行っている。 ④家庭学習習慣定着のために週末課題や单元ごとの課題を与え、提出させている。		
次年度への改善点		
・主体的・対話的な授業となるよう、様々な側面から発表の場を増やし、バリエーションに富んだ授業づくりを模索していく。また、「なぜ」を考え追及していく姿勢が身に付くよう発問や授業形態についても研究し、理科好きの生徒を増やしていく。 ・各授業の導入・内容・まとめの組み立て方をもう一度見直し、子どもたちの興味・関心を引き出す授業作りを行っていく。さらに、効果的に記憶に定着できる仕掛けも考えていく。 ・学力向上のためにテスト前の補習等を行ったが、十分な補習時間を確保することが難しく、補習内容やタイミングの精査を行い、効率的な学習になるよう検討していく必要がある。また、百問繚乱や外部テストを用いた分析を基に、弱点部分の補強を行い、基礎的な内容の反復学習を継続していく。		

(2) 教科の重点⑤〔音楽〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【基礎学力の定着】 基礎学力を定着させるために、授業内で歌唱、器楽、鑑賞、プリント学習を行い、音楽の基礎的な学力や技術を身につける。	B	B	
② 【言語力の育成】 言語活動の育成として、音楽に関する批評文を書かせ、音楽に対する思いや意図を言語で表現できるようにする。	B		
③【個に応じた学習指導】 歌唱を行い、読譜の苦手意識を克服できるようアドバイスを行う。全員が技術を習得出来るよう、声掛けを行う。	B		
④【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 基本的な知識と技術の定着を図るため、長期休業中に課題をだし、家庭での練習習慣を身につけさせる。	B		
⑤ 【規律、習慣付け】 毎時間のワークシートや批評文を必ず提出させる。	B		
現状と分析			
①【基礎学力の定着】教科書に記載されている基本的な音楽知識は3学年とも定着しつつあるが、それをうまく表現できる技術をつけることが課題である。			
②【言語力の育成】4月に比べ、知覚・感受したことをことばで表現することが少しずつではあるが上達してきている。			
③【個に応じた学習指導】創作活動・リコーダーでは机間指導を重点的に行った。歌唱では、クラスでの合唱取り組みの際に苦手と感じている生徒が多かったため、パートごとにピアノで一音ずつ音を取り、指導を行っている。			
④【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 長期休業課題では、自分の好きな音楽をジャンル問わず紹介させた。多岐にわたる音楽の良さを生徒の言葉で表現し、それを共有することで「なぜ」この音楽が好きなのかを改めて考える機会を作った。			
⑥ 【規律、習慣付け】音楽を形作っている要素を参考に自分の考えを提出させている。			
下半期・次年度への改善点			
・1・2年生は合唱取り組みに時間をかけて取り組ませ、授業の歌唱でのグループ活動に生かしていく。 ・表現することの楽しさを知り、多種多様な音楽を理解させていく。 ・器楽活動ではグループを組んで得意・苦手とする生徒が教え合い、共有できる場面を増やしていく。			

(2) 教科の重点⑥ [美術]

美術の表現活動と鑑賞活動を通して、身近な生活の中にある美しいもの、価値の  
目 標： あるものを感じ取る感性を育み、よりよいものを求めて自分なりの意味あるもの  
として表現していく態度の育成と準備力・創造力・集中力の定着を図る。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
① 【基礎学力の定着】年間で作品を3点制作させる。3年間を通して計画的に作品づくりを行い、準備力・創造力・集中力の定着を図る。	B	B
② 【言語力の育成】作品制作後のまとめや鑑賞レポート作成や発表を行い、美術的な感動を言語によって表現する力を養う。	B	
③ 【個に応じた学習指導】生徒に対する助言や技術的指導を丁寧に行い、制作中の作品に対するこだわりや悩みを細かく拾いあげる。	B	
④ 【自主学習習慣の定着】作品制作を進める中で、生徒ごとに作品制作にかかる時間に時差が生じるため、各学年、各学期放課後の補習時間を設ける。	B	
現状と分析		
<p>【基礎学力の定着】</p> <p>「めあて」を毎時間示し、長期的または短期的な目標を明確にした。授業規律や材料や画材の名称を覚えたり、正しい使用方法など基礎を守ることによって技術力が上がることを実感させる授業づくりができた。</p> <p>【言語力の育成】</p> <p>作品を振り返り、自身の言葉や学習した用語などを使い作業手順を振り返りながらレポートで表現する力をつけることができた。</p> <p>【個に応じた学習指導】</p> <p>基礎に注力し、机間巡視の時間が十分に取れなかった。</p> <p>【自主学習習慣の定着】</p> <p>自主的に補習に来る生徒は決まっており、声掛けしても来ない生徒への対応が課題である。提出することが当たり前となるような環境づくりを行いたい。</p>		
次年度への改善点		
<p>・文化発表会の作品展示で先輩や友人の作品に触れ、身近に美術を感じれるようレポートなどで表す。</p> <p>・木彫の身近なもののデザインを通して、3学年が彫刻刀を安全に使える環境の大切さを理解し、楽しみながら作る喜びを知ることができる。</p>		

(2) 教科の重点⑦〔保健体育〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【基礎学力の定着】 集団行動を徹底して行わせる。 各種目の特性やルールを理解させ、安全に学習を行う態度を身につけさせる。 毎時間、補強運動を行わせ基礎体力を身につけさせる。特に俊敏性と柔軟性が大阪市平均より劣るので、その能力を高める。	B	B
② 【言語力の育成】 生徒同士で励ましたり、教えたりできる学習環境を整え、積極的に声をかけあえる学習を取り入れる。 集団や自分に適した課題解決のために、学習カードなどを用いて解決方法を考えさせ、生徒たちの前で発表させる時間を1時間に1回以上つくる。	B	
③ 【個に応じた学習指導】 習得技能に応じて課題を設定し学習に取り組ませる。	B	
④ 【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 体育委員と班長を中心に準備運動や用具の準備、片付けなど積極的に行わせる。 体力の保持増進のために基本的生活習慣を身につけさせる。	B	
⑤ 【体力向上の推進】 全国体力・運動能力、運動習慣調査で「長座体前屈」「反復横跳び」の項目を昨年度より2ポイント増加を目指す。（大阪市平均を上回る）	—	

現状と分析

【基礎学力の定着】

各学年、男女ともに様々な種目に取り組むことができた。4月当初は少しランニングすると、しんどくなっていた生徒も今では余裕をもって走れるようになった。

【言語力の育成】

授業クラスの組み合わせがいつも変わっているので、先に新しいことを習っているクラスが、まだ習っていないクラスに教えたり、一緒のグループにして活動したりすることで積極的に動こうとする生徒が増えた。また、毎時間振り返りを行い、感想を班で発表したり全体の前にでて発表したりできている。

【個に応じた学習指導】

同じ種目でも学年によって授業内容を変えたり、子どもたちにとって無理のないように、そしてちょっと頑張れば達成感を味わえるような授業づくりを考えて行っている。

【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】

次のことを考えて行動できるようになってきており、準備、片付けは生徒中心で行うことができている。

【体力向上の推進】

結果は年明けにわかる。

下半期・次年度への改善点

①授業前は、5分前には集合できているがその前の時間にそわそわしたりしている生徒がいるので注意していきたい。また、授業後の更衣が遅く、次の授業に間に合っていないことが多々あるため、指導していきたい。

②引き続き振り返りの時間をとっていくことと、チャイムが鳴るまでに片付け等終わらすことができるようにする。

③入り込みの先生とも協力して個に応じた学習指導を心がける。

④準備運動の細かい部分の指導を行う。体育委員や班長が中心となるような活動を増やしていき、活動を行う。

## 2) 教科の重点⑧〔技術・家庭〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
① 【基礎学力の定着】 定期的な小テストを3回以上実施し、平均正答率を70%以上にする。 振り返りシートを活用し、知識の定着、新しい発展した学習を育む。	B	B
② 【言語力の育成】 実習レポートまたは発表に年間3回以上取り組み、課題を解決するための考えや工夫を書かせることによって、言語力の育成を図る。	B	
③ 【個に応じた学習指導】 実習時の新端末を取り入れた授業展開、生徒の様子を見ながら声掛け等を行う。 定期的な班活動、必要に応じて補習を行う。	B	
④ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 長期休暇中に課題を設定するなど、学習をより身近なものへと活用する自主的な学習習慣の定着を図る。	B	
現状と分析		
①定期的に小テストを実施し、基礎学力を高めることができた。定期テストでも知識問題に正答する生徒が増えた。 ②実施した課題を展開し、新たな課題解決見出し、学びを深めることができている。日ごろから記述して考えさせる取り組みや発表を継続して行っているため、思考を表現できる生徒が増えた。 ③班活動や実習作業などを通して、生徒同士のかかわり中で学習し、机間指導等で個々の対応を行えている。 ④授業で学習した事柄を家庭に持ち帰って生かす取り組みを行い、より技術面が伸び、知識も定着している。		
下半期・次年度への改善点		
①適宜小テストを今後も実施し、定着を図る。一定ラインを下回る生徒についての補習活動等を行っていく。 ②実用的な課題を見つけ、よりよく生きていくための学びを探究できる取組を展開していく。 ③生徒間での班活動での教え合い、学び合いの時間を大切にし、補助が必要な生徒に対してはできるまで声掛け、援助等行っていく。 ④長期休暇では普段よりもさらに生活に密着した取り組みを考えていきたい。		

(2) 教科の重点⑨〔英語〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
① 【基礎学力の定着】授業の「基礎・基本」にあたる内容の確認を目的とした単元テストを定期的に行い、再テストで知識の定着をはかる。	B	B
② 【言語力の育成】英語によるアウトプットが多く取り入れられた授業を行い、パフォーマンステストを実施する。C-NET での Team Teaching による授業を年間 15 時間以上実施する。	B	
③【個に応じた学習指導】習熟度別分割授業を実施し、課題に応じた学習を行う。また放課後に学習会を行いボトムアップを目指す。	B	
④ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題の提示及び自学自習の確立への取組】毎時間プリントなどの課題を与え、授業内においてその課題への取り組みを確認する。長期休暇課題を授業の中でも活用し、取り組みが不十分な生徒に対する指導を行う。	B	
⑤ 【小中連携】遠里小野小学校、山之内小学校の小学 5・6 年生に週 2 回、英語の授業を行い、小中連携を進めていく。	B	
現状と分析		
<p>単元テストに代わり習熟度のクラス別に課題を確認する小テストを行っている。</p> <p>習熟度別分割授業を実施し、知識の定着やそれぞれのコースに応じた学習に取り組むことができている。パフォーマンステストはコースごとに発表しているが、全体で発表にすることでアウトプットとインプットがスムーズにできる。夏季休業中の課題を出したが、取り組みが不十分な生徒に対しては現在も継続指導している。</p> <p>小中連携では、山之内小学校は継続して英語の授業を行うことができているが、遠里小野小学校との連携は希薄になっている。</p>		
下半期・次年度への改善点		
<p>習熟度別授業により、学力に応じた学習に取り組むことができるようになった。ただ、コースごとに人数の設定やコース変更の際に評価の仕方など来年度に向けて改善が必要だと感じます。</p> <p>一斉授業、習熟度授業、少人数分割授業など様々な授業形態を必要に応じて計画すること。</p> <p>また、年間指導計画や評価システムの構築など後期、次年度にスムーズに取り組めるよう準備をしていきます。</p>		

### (3) 生活指導部

評価基準      A：目標を上回って達成した      B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった      D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
<b>【 小中一貫教育の推進 】</b> 9年間を通して、めざす子ども像「場に応じたあいさつがしっかりできる生徒を育てる」を目標に、教育内容を充実させる。	B	B
指標：連携行事（中1 情報交換、体験学習、部活動体験学習）実施 教職員研修（道徳、ピア・サポート、メンター研修等） 2 回 教員相互授業参観の実施 3 回		
<b>【 規範意識の向上 】</b> ・「言葉づかいは心づかい」「元気よく・気持ちよく、あいさつしよう」の実践。身だしなみを整え、生徒自らが『時間を守る』姿勢を身につけさせる。 ・体罰根絶への指導体制を確立させ、生徒理解を深める研修会および相談活動の実施	B	
指標：登校遅刻ゼロの達成 チャイム着席の定着 正しい服装の着こなしの徹底 生徒会中心による「生徒議会」の実施 「生活指導研修会」実施 4 月 随時 生徒理解を深める「教育相談活動」 年 3 回 随時 体罰ゼロの教育活動を推進する		
<b>【 防災教育の推進 】</b> 「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。各種マニュアルを策定する。	B	
指標：火災、震災訓練の実施。地域別の防災訓練。下校訓練		
<b>【 不登校傾向生徒への対応 】</b> ・生徒の状況把握を図り、全教職員で共通理解し、個別の具体的な手立てを講じる。日常的に情報の共有、共通理解を行い、生徒の心の変化を早期に把握する。 ・生徒一人一人の状況に応じた、個別最適な対応。	B	
指標：週 1 回 不登校傾向生徒の状況把握。改善方針の確認。 月 1 回 全教職員と状況把握。 「生徒ボード」を活用した生徒の情報共有と把握。		
<b>健康 体力の保持増進 ③【 健康に関する指導の推進 】</b> 発達段階に応じた健康に関する指導を系統的に行う。	B	



指標：学級活動、保健体育の授業、総合の時間を活用して、薬物、飲酒、喫煙に関する学習会を行う。(全学年３回)(外部指導者を含む)		
---	--	--

現状と分析
<p>大きな指導案件は起きていないが、学校生活、特に授業規律に関しては再度、教職員で共有していく必要がある。</p> <p>学校外トラブルに置いては、今後も外部機関と連携しながら注意していく必要がある。</p> <p>不登校生や登校後の入室が難しい生徒などへの対応なども引き続き、チャレンジルームや区役所とも連携を取りながら継続していく。</p> <p>また、学警連絡会の内容を全体共有する取り組みは今年度も引き続き行っている。</p>
次年度への改善点
<p>現状分析にもあるように、大きな生活指導の案件は減少傾向にあるが、小さなトラブルに目を向ける必要がある。生徒の学校や授業への慣れから起きている事案もあるため、授業規律・黙想・黙食・黙働清掃など、日々の活動での「凡事徹底」を全職員で共通して意識する必要がある。</p>

(4) 健康整備部

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 健康・体力の保持増進 食に関する知識と食習慣を身につけるための教育活動を進める。 指標：食育通信の発行8回 小中連携した食育推進連絡を行う。（年2回） 長期休業中、食育調査を行う。		B	B
② 学校・家庭・地域の連携 学校・家庭・地域の繋がりを深めるために各関係諸機関と取り組みを進める。 指標：救急救命法（AEDを含む）の講話を年一回実施する。		B	
③ 感染症対策 免疫力を高めるために、基本的生活習慣を身につけさせる。 消毒作業の徹底、学習環境を整える。 指標：学年集会等で啓発活動を行う。 登校時の健康観察結果の確認、記録簿を管理し情報共有する。 1日1回以上消毒する場所と使用状況に応じて消毒する場所を分けてチェックリストに記録・管理する。		B	
現状と分析			
・ 毎月、保健だよりと一緒に食育通信を発行し9月現在8号を発行している。 ・ 大阪公立大学の学生と連携し、食育活動を進めた。 ・ 長期休暇中に家庭科と区役所と連携して、朝食を自炊する取り組みを行った。 ・ 毎朝、健康観察表で健康チェックをし、記録管理している。 ・ 毎日消毒作業を徹底して行い、チェックリストに記録し、管理している。			
次年度への改善点			
・ 区役所・家庭科と連携した食育の取り組みについて、今後食育展に出展する予定。 ・ 自身の健康状態を把握することを意識付けしていく。 ・ 地域清掃は1・2年生で実施できたので、継続していきたい。 ・ 大阪公立大学と連携して食生活のアンケートを実施したので、分析結果を今後の指導に活かす。 ・ 消防署と連携した救急救命講習が実現できた。次年度も継続していく。			

(5) 道徳委員会

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが、目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
<b>道徳心・社会性の育成 ①【 道徳教育の推進 】</b> 道徳委員会を中心に年間指導計画を作成する。 生徒一人ひとりに、「自分の生き方を見つめ直し、多角的・多面的に物事を考えられる生き方ができるようにしていく」という課題設定で実践を行う。 「命を考える」教育活動を柱とした平和維持学習に取り組み、「自立する力、他者を意識し思いやる心」の育成を図る。	B
指標 ① 道徳授業(年間35時間の実践) ② 原則、教科書による授業を実践し、授業終了後、生徒に感想シートを書かせることにより、生徒の理解度を把握する。 ③ 校内道徳研修会実施	
現状と分析	
①年間計画に沿って、各学年、道徳授業数の確保が出来ている。 ②原則、教科書による授業を実践できており、感想シートも生徒に書かせ、心情が把握できている。時間が余れば、感想を発表させ、クラスの中で意見を共有させている。また、導入で最初に、映像や写真で時代背景などを視覚的に見せることにより、読み物資料に入り込みやすく、主題を深く考えることができるよう工夫をしている。 ③ 4月に校内新転任道徳研修を実施し、道徳の授業についての共通理解を行った。	
下半期・次年度への改善点	
・ どの教員が授業を行っても、大阪市の推奨する「気づき1」から考えを深め、「気づき2」で子どもたちが自分の考えを発展させられるよう、それぞれの先生方が資料を深める発問ができるようにするために、道徳研究授業を実施し、よりよい道徳授業の構成を考えるきっかけ作りを行い、しっかり教材研究を行える体制を整える。  ・ 道徳委員会が中心となって、よりよい授業づくりができる体制を整え、進めていく。	

(6) 進路委員会

評価基準      A：目標を上回って達成した      B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった      D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
道徳心 社会性の育成 ③【 キャリア教育の推進 】 キャリア教育年間計画に沿って、系統立てた教育内容を推進する。	B
指標：職業講話（１年） 職業体験（２年） 高校出前授業体験（３年）	
現状と分析	
１年生      ６月には、自分の適性・気になっている職業を知り、将来の夢や希望を考えるきっかけづくりとした。７月には様々な職業が存在することを知るためのグループワークを行い、夏季休業中には職業調べを通じてさらに関心を高めるようにした。今後、１月の職業講話も活用して様々な職業についての理解と関心を深めていく。	
２年生      ７月にはＳＰトランプの出前授業で自分の適性や強みを知り、９月にはＯＢＦ高校の出前授業を行い、進路への関心を高めるきっかけとした。１２月には職業体験を予定しており、実際に現場で働く体験を通して、仕事や働くこと、社会について理解を深め、自分の進路・将来について考える機会とする。	
３年生      ７月に高校による出前授業を行い、進路への関心を高め、考える機会になった。また、個人校長面談を通して、自分と向き合い、進路を考えるきっかけとなった。１１月下旬には興國高校に面接講座をしていただく予定にしている。	
下半期・次年度への改善点	
◇引き続き、外部講師による講話や体験などを有効に活用していく。	
◇職業講話の講師などの外部講師については、どの学年でも依頼しやすいような大和川中学校独自の人材バンク、人材の蓄積が必要であるとともに、子どもたちの可能性が広がる講話先を考えていくことが重要である。	
◇「キャリアパスポート」については、各学期の節目に振り返りを行い、それを次に活かしていけるよう、引き続き活用を図っていく。	

(7) 教育課題検討委員会

評価基準    A：目標を上回って達成した                      B：目標どおりに達成した  
                   C：取り組んだが、目標を達成できなかった    D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
<b>課題の把握と解決</b> ・学校の現状を把握するとともに課題を検討し、それらの解決に向けて取り組む。	<b>B</b>	
指標：週 1 回の主任会 生徒および教職員アンケートの実施 カリキュラムの編成 年間行事予定作成に向けた検討 学力向上に向けた習熟度別授業の実施と課題 中間反省・年度末反省での意見交換		
現状と分析		
現状や課題の把握、検討をおこない、学年や各部、各委員会、各教科でそれぞれ課題をだし、解決に向けて取り組むことができている。		
下半期・次年度への改善点		
アンケートをもとに随時、軌道修正しながら下半期や次年度のカリキュラム編成、年間行事の作成に生かす。		

(8) 特別支援教育の重点

目 標：	社会的な自立能力向上のため、各関係機関との連携をより強化し、 「個別の教育支援・指導計画」をさらに充実させ、時間割もより一層工夫したい。
------	---

評価基準    A：目標を上回って達成した                      B：目標どおりに達成した  
                  C：取り組んだが、目標を達成できなかった    D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
① 【個に応じた学習指導・基礎学力の定着】 生徒一人一人の障がいや発達段階、学力に応じた学習課題を厳選して設定し、それらを毎時間見直して、基礎的な知識・理解・技能等を伸ばし、生活に活かせる力をつける。	B	B
② 【基本的生活習慣の確立・健康な生活習慣】 基本的な生活習慣と生活態度をより一層育て、健康で楽しい学校生活が安心して送れるようにする。	B	
③ 【社会参加促進】 集団活動に参加しようとする意欲を養い、好ましい人間関係を育てる。	B	
④ 【個別の教育支援・指導計画について】 保護者の１００％参画を促し、計画の内容について保護者の意見を十分に聞いて計画する。「個別の指導計画」に基づく指導を実施し、中間評価・最終評価を行う。 スキップでの「個別指導の記録」の内容を充実させ、それらを全教職員で共有し、個別の支援・指導に活かす	B	
⑤ 【研修について】 全教職員への特別支援教育研修を、年間１回以上実施するとともに、障がいに対する知識・理解の促進、啓発を行っていく。 特別支援教育委員会・職員会議等で、毎月１回情報交換をする。	B	
結果と分析		
① 生徒個々の能力に応じた支援・指導で、学校生活における基本的生活習慣・態度が養われ、登校できなかった生徒も少しずつ登校し定期テストを受けられるようになってきた。 ②③ 習熟度別授業になり、通常学級で授業を受ける時間が増えたことで、通常学級の生徒とも関わる機会も増え、仲間と協力して自分らしさを発揮することができ、自立へ向けて成長できた。 ⑤ 夏休みに発達障がいに関する研修を実施し、障がいに対する知識・理解の促進、啓発を行えた。		
下半期・次年度への改善点		
①②時間割を工夫し、自立能力の向上や基礎学力の定着を図っていきたい。 ② 通常学級担任・保護者や関係諸機関との連携を図り、長欠生徒や教室に入れない生徒に対しては、一緒に改善策を検討し、粘り強く対応していきたい。 ③ 校外学習では、電車の利用や切符の買い方、新しい環境の中での友達との関わりなど、自立に向けて社会参加を積極的に行っていきたい。また、作業活動や園芸では、自分でできることを増やす経験を多く作っていきたい。 ④ 校務支援パソコンを活用し、個別の支援・指導を閲覧することで全職員が共通理解を行う。		

## 9) ICT 委員会

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが、目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
①ICT 活用の推進 ・新しい機器やソフトが滞りなく導入できるように、必要な研修を適宜行う。 ・ICT 活用の研究を行う。		B	B
指標 ICT 研修の実施、ICT 活用能力の向上			
②機器管理 ・管理台帳の作成をし、機器の保守点検や確認を年 2 回行う。		B	
指標 機器管理台帳の更新、運用			
現状と分析			
・年度当初に ICT 研修を行った。校内だけでなく校外に対してのソフトウェアの推進を行った。 ・機器管理台帳の作成および、定期的な不具合の確認を年 2 回行う予定である。			
次年度への改善点			
・ICT 委員会の担当者だけではなく、全員が基本的な対処ができるような環境を作っていく。 ・必要な機器は回収し、管理できる環境を整えていく。また、管理台帳の再確認も行っていく。			